

Title	紐育市を中心として見たる米国印刷業労資団体の沿革及組織：米国労働運動に関する報告一班
Sub Title	
Author	小島, 栄次
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1929
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.23, No.11 (1929. 11) ,p.1691(143)- 1736(188)
JaLC DOI	10.14991/001.19291101-0143
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19291101-0143

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

紐育市を中心として見たる

米國印刷業勞資團體の沿革及組織

——米國勞働運動に關する報告一斑——

小島 榮 次

目次

- 一 緒言
- 二 印刷過程及製品の説明
- 三 勞資團體表
- 四 勞資團體の沿革及組織——勞働組合
- 五 勞資團體の沿革及組織——雇主組合
- 一 緒言

本篇は、紐育市を中心として見たる米國印刷業雇主組合及勞働組合に關する一報告書である。同市を中心として同産業各職業に於る勞資團體の組織と活動とを略述し、其根柢に横る要因を見出さんと試むる報告書である。即ち各國間、各産業間、各職業間、及各都市又は各地方間の勞働運動の相違を説明し、更に進んで將來を豫測せんとするが爲めの一素材たらん事を目的とする報告書であ

る。

米國印刷業に於る勞働組合は、同國に現存する全國勞働組合中最長の歴史を有し(註一) 同國勞働運動の多數派米國勞働聯合の中堅の一である。(註二) 其組織に於て其活動に於て、此多數派運動に屬する諸勞働組合を或程度まで代表させ得るものと見て差支がない。紐育市は、米國印刷業最大の中心地として、印刷工勞働組合の重要な支部の所在地である。全國的勞働組合本部への中央集權の勢歴然たる今日に於ても、全國的團體交渉が一般的ならざる以上は、斯の如き組合支部は、一の組織單位として勞資關係上最も重要な位置にある事は云ふを俟たない。而して又紐育市は、米國最大の印刷業中心地たる其位置よりして、印刷業勞働運動の殆どあらゆる要素を包含し、而も反勞働組合雇主運動は異常に弱小にして、米國多數派勞働運動の目標たる團體交渉が、印刷業中比較的に最も整然と行はれつゝある都會である。

印刷(Printing)なる語は、從來幾多の意味に用ひられて來たが、此報告書に於ては、合衆國統計局「製造工業統計」(U. S. Bureau of Census, Census of Manufactures)に於るが如く、書籍及臨時物(Book and Job)、新聞、定期刊行物、樂譜等の印刷を指すのみならず、同統計に於て「其他附帶諸産業」若くは「其他關係ある諸産業」(Allied industries or Related industries)として分類する、平版印刷及銅版銅版彫刻印刷其他をも含むのである。(註三) 後述するが如く、技術的用語に従へば、是等は皆均しく印刷である。又此報告書は以上印刷業の他製本業其他をも取扱はんとする。是等全部の産業間には密接なる補足的關係或は其反對に代用的關係の存するものがあつて、各産業の勞働者間にも協力的

及敵對的關係が見出されるのである。故に、印刷業に於る勞資團體の組織及活動に就て明確なる概念を得んが爲めには、是等諸産業の孰れか一を見んよりは、能ふ限り全般に亘りて觀察をなす事が、一層有効であると思惟される。此報告に米國諸産業中印刷業が選ばれ、其中心として各都市中紐育が選ばれ、且又同市同業の勞資團體の能ふ限りの全部が取扱はれんとする所以は以上の如くであるが、更に此産業此都市に關し、文献の多い事も亦最も重要な理由の一である。Ehlerbert Stewart, A Documentary History of the Early Organization of Printers (Washington, D. C., 1905), George E. Barnett, The Printers, A Study in American Trade Unionism (Cambridge, 1909), George A. Stevens, History of Typographical Union No. 6 (Albany, 1913), George A. Tracy, History of the Typographical Union (Indianapolis, 1913)等の良書を初め、數多の好資料に富む上に、勞働組合の機關雜誌も頗る整備して居るものがある。

最後に此報告書の範圍に就き更に二の限界のある事を述べねばならぬ。其一は、從來團體交渉なる語は二様に用ひられて居るが、此報告書に於ては、勞働組合に依る團體交渉に従事する勞資團體のみが取扱はるゝ事である。會社別勞働組合又は御用組合(Company Union)型の所謂團體交渉に従事するものを取扱はざりしは、一方に於て資料蒐集の困難なるを、他方に於て紐育市に於ては斯る勞資團體は極めて輕微の勢力を有するに過ぎざるが故である。(註四) 其二は、本篇が勞資團體の經濟的活動のみを報告する事である。政治的社會的運動も亦勞資團體の重要な職分であり、經濟的活動とも相關聯するものであるが、此方面を取扱ふ事は筆者にとり餘りに巨大なる仕事を要求する。

又種々の社會主義的思想の如きも、勞資團體の經濟的活動に影響する所大なるを疑はないのであるが、同様な理由に依り、之を此報告書の範圍外に残す事とした(本篇末尾附記參照)。

註一 一八五〇年代に於る鐵道の急激なる發達が全國的市場を目標とする生産を可能ならしめ、同時に又勞働の地理的移動を自由ならしめたるを機縁として、六〇年代に至り、多數の全國的勞働組合が相續して成立した。之に先づ印刷工は既に夙く一八五二年に全國的組合を組織し、全國的組合運動の先頭に立つた。(第四節參照)次に續いたのは一八五四年の製帽工組合共に一八五九年に成立せる機械工及鍛冶工の組合及鑄物工の組合であった。印刷工の組合は斯の如く一八五二年に成立して以來繼續して居るのみである。George A. Tracy, History of the Typographical Union (Indianapolis, 1913), p. 137. John R. Commons and Associates, History of Labor in the United States (New York, 1918), Vol. II, pp. 43-47, 58, 313.

註二 米國勞働聯合 American Federation of Labor の前身をなすやち Federation of Organized Trades and Labor Union 成立前後に當り、印刷工の組合が勤めたる役割 (James M. Lynch, Epochal History of the International Typographical Union, Indianapolis, 1925, pp. 44-47) 其當時及び現在に於て印刷業の組合代表が A. F. of L. の最高委員會に於て常に一人乃至二人の椅子を占むる事 (RandSchool of Social Science, The American Labor Year Book, New York, vol. I-VIII, 1916-27, U. S. Bureau of Labor Statistics, Monthly Labor Review, January, 1929, p. 106) 及印刷業組合中最大の植字工の組合は A. F. of L. の主力たる一〇五の全國的勞働組合 (The American Labor Year Book, vol. IX, 1928, p. 105) 中、其組合員數に於て過去六年間第八位前後に在る事 (The American Labor Year Book vol. VIII, 1927, pp. 71-73) 等より見て、正に所謂中堅の位置にあるもの云ひ得べし。

註三 すべて印刷術及印刷に就ての譯語は、矢野道也著、印刷術、上、中、下巻、東京、丸善株式會社發行、大正二年一三年に依る。

註四 組育 Printers' League (第五節參照) F. A. Sloss 氏が筆者の質問に答ふる所に依れば、印刷業に於る Company Union の運動は、ボストン及ボルチモア兩市に於て相當有力なるも、組育市に於ては、製本業に於て幾分なりとも積極的な試みが見られつゝあるに過ぎぬ。而して製本業者は筆者の問合に對して何等の回答も與へなかつた。又 Sloss 氏は、恐らく平版印刷業をも考慮に入れて居られなかつた事と思ふが、同方面に於ても雇主組合又は勞働組合に出したる問合に對し何の回答も受取らずして終つた。

二 印刷過程及製品の説明(註五)

「印刷」(Printing)とは、或定義に従へば、「活字、板、其他模様を有する面にしてインキを塗布せられたるものより、紙又は類似の材料の上に、強壓に依りて其字又は模様を移す術、行爲、方式」である。(註六)勿論此行爲以外に準備的行爲例へば植字或は製版等が、事實上印刷行爲の一部をなす事は云ふまでもない。之等全部を廣義の印刷とすれば、此定義に於る印刷は狹義の印刷であり、之を行ふ機械は即ち印刷機(Printing Press)を取扱ふ職工はプレスメン(Pressmen)である。

故に印刷とは、其原版に必ずしも活字を用ふるものみに限らず、木板、鋲鉛板、銅板、アルミニウム板、鋼板等を用ふるものもあり、又必ずしも紙に印刷されることは限らず、鉄力(Thin Plate)にも印刷されるのである。併し、一般通俗の用語に従へば「印刷」とは、右の定義の一部分、技術的に活版術(又は印書術 Typography or letter-printing)を稱せらるるもの、即ち活字又は其複製物(Duplicates)にインキを塗布したるものより強壓に依りて紙面へ其文字を移す術行爲方式及び共に伴ふ準備作業を指すのである。(註七)例へば「製造工業統計」も印刷なる語を此意味に用ひて居る事は前述せる所である。(註八)植字及前述の狹義の印刷作業(Typesetting and printing press work)も亦夫々慣習的に印刷と稱せられる。斯くして印刷工と呼ぶ時通常植字工(Compositors)を指し、又壓々プレスメンを意味するのである。(註九)

活版印刷の製品は、書籍雜誌、新聞、樂譜、臨時物等に分類される。臨時物(Temporary)とは、名刺、招待狀、年賀狀、番組、切符、引札、用箋、傳票、用紙、獻立表、受取書等の書付類其他雑多の印刷物にして、主として一葉の紙片よりなり小型のものを云ふのである。(註一〇)

植字(手又は機械)及狹義の印刷作業は活版印刷過程の主要部分を占め、小活版印刷工場に於ては、此二過程が其工場内をなす

れる全作業である。併し大量の印刷をなすに當つては、主として鉛版又は電胎版(Stereotype or Electrotype)後者は電氣版、電鑄版とも云ふ)を以て、原活字版より複製を作り、之を原活字版の代りとして用ふるが常である。是等複製版は、數多の印刷機にて同じ物を同じ時に印刷する事を容易ならしむる他、新聞印刷用其他の高速度輪轉機は、是等複製版の使用に依りて初めて可能なるのである。(註一一)而して以上二種の複製版の中、鉛版は電胎版に比して製法簡單にして費用低廉であるが製品の質に於ては電胎版に劣るが故に、主として新聞紙其他高級の印刷を必要とせざるものに用ひられ、電胎版は主として高級なる書籍雑誌の印刷に使用せられる。

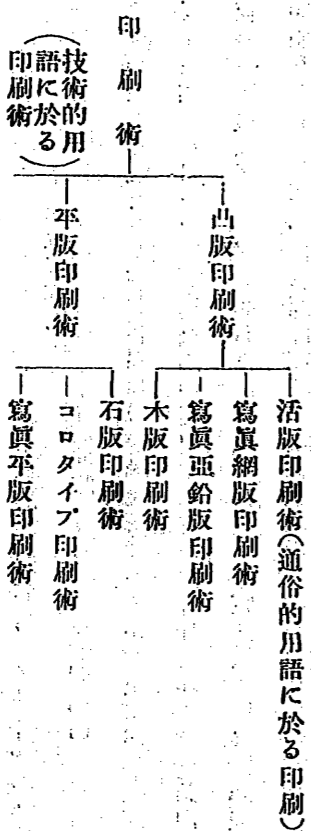
書籍新聞雑誌の挿繪印刷に最も多く用ひらるゝ寫眞網版及二色三色又は四色の色刷寫眞網版(Half-tone and color half-tone)は寫眞製版術(Photogravure)に依つて作られる。寫眞網版の他に、寫眞製版術に依つて作られるものに、寫眞鉛版、コロタイプ、寫眞平版、寫眞凹版等がある。網版は、銅板の面に、寫眞工學的方法を以て、多くは微細なる點に依つて圖面を蝕刻するものを云ふのである。

寫眞網版は原圖の半調色の部分を自由に現し得るに反し、寫眞鉛版(Photolithography)は半調色の部分を現し得ず、従つて其用途は線畫又は點畫の印刷に限られて居るが、斯る範圍内にては、主として其費用低廉なる事の理由に依り盛に用ひられて居る。一八八〇年前後に各種の寫眞製版術が行はれ初めし以前は、挿繪印刷用の原版は、木版又は木彫製版術(Xylography or Wood-engraving)を以て作られた。併し木版は大部分極めて技術的なる手工にして、多くの時間を要し従つて高價なるが爲め、現在に於ては餘り用ひられず、新聞紙又は雑誌に用ふる廣告の内の或物及機械線畫の挿繪の或物等が、現在での木版製品の殆ど全部である。美術印刷の木版(Woodcut)は古來一般に賞翫せられて居るが、實用的印刷としては殆ど無視され得るものに過ぎない。而して前記の實用的目的に用ひらるゝ木版も、全部鉛版又は電胎版に複製の上用ひられ、原版を直接用ふる事は全く無い。

活版術、寫眞網版及寫眞鉛版凹版及木版術を總稱して、印刷術分類上凸版印刷術(Relief-printing)と云ふ。印刷せんとする字又は模様は版面に凸出し、インキが此高き部分のみに附着せしめらるゝが故である。此種類に對して、石版印刷術(Lithography)寫眞平版及コロタイプ等は、版面に凹凸なく、化學作用を以て或部分のみにインキを附着せしむるものなるが故に、之等を總稱して平版印刷術(Planography)と云ふ。石版印刷術は最初或特殊石材の平面を版として用ひたが、現今にては亜鉛板、アルミニウム板等を以て代用せしめて居る。其製品の主なるものはポスター類、書物表紙、挿繪、證券類、用箋、美術印刷、地圖、其他あらゆる包装用の物の上の印刷即ち紙箱袋、包紙、罐等の印刷等である。石版印刷を寫眞製版の方法を以て行ふものを寫眞平版(Photolithography)と稱し、従つて其製品は石版の夫と同様であるが、尙寫眞平版の他に寫眞製版に依る平版印刷に屬するものにコロタイプがある。高級挿繪に用ひらるゝものであるが、其版の性質上、網版、石版、グラヴィア(則寫眞凹版)等と異り大量の繪畫印刷を行ふには不適當である。

凸版平版印刷術に對し更に凹版印刷術(Intaglio-printing)がある。主として銅又は鋼板の面に凹部を作り之にインキを充填して印刷するものである。古來エッチングとして有名なる美術印刷の他、名刺、招待狀、賀狀、用箋、紙幣、證券類、地圖等が主要なる製品である。是等の製版はすべて手工を主とするものであるが、是等の他寫眞製版法を用ひたる凹版にして寫眞凹版(グラヴィア Photogravure)がある。新聞紙の日曜繪附録は多く此方法に依りて印刷さるゝ他、挿繪、美術繪畫、寫眞の複製、等製品の範圍は廣い。現今にては挿繪のみならず本文をもグラヴィアにて印刷せるものを屢々見かくるに至つた。是は主として印刷速度の高き事と粗悪なる印刷用紙を以てしても猶美術的效果を擧げ得る事との二理由に依るものである。

以上の分類を要約すれば次表が得られる。勿論之等を以て印刷術の全部なりとするのではない。唯最も主要なるものは全部含むて居ると信ずるのである。(註一二)



凹版印刷術 — 鋼版銅版彫刷術(Steel and Copper Plate Engraving and Printing) 寫真凹版(シラヴィア)印刷術

以上は技術上より觀たる印刷業各過程の分類説明であるが、更に印刷業經營上は等各過程が如何に分布されて居るかを觀るに、活版印刷業は新聞印刷及書籍及臨時物印刷の二部門に分たれる。新聞印刷業には、植字、印刷(狹義の)、寫真製版(寫真網版即ち凹版の一過程及グラヴィア即ち寫真凹版、其他)鉛版製版、等の諸過程が屬する。書籍及臨時物印刷業は、書籍雜誌樂譜及臨時物印刷をなし、例外的に新聞印刷業同様各種過程全般を含む經營もあるが、是等の大經營に於ても其作業の一部に對して外部の植字、寫真製版、鉛版電版製版、等の專業的工場を借りる事もあり、普通一般の工場は是等の專業工場を利用して經營されるのが通則であつて夫に含まれる過程も植字及印刷の二過程に過ぎぬものも多い。右の如く經營上に於ては、凸版も凹版も其一部分は同一部門に含まれるのである。又平版印刷業は大體技術上の平版印刷各過程を含むのであるが、凸版又は凹版の製版過程に依りて原版を作り、是より轉寫に依りて印刷用の平版を作る場合もある。次に凹版印刷過程の一部寫真凹版は、前記の如く新聞印刷業、書籍印刷業又は寫真製版業に屬する。經營上凹版印刷の他の過程即ち銅版銅版の彫刷印刷が同一部門に屬し、Plate engraving and printing 之一般に稱せられる。

註五 印刷過程及製品の説明は主として Charles W. Hackelrnan, Commercial Engraving and Printing (Indianapolis, 1921), 及 R. T. Porte, Dictionary of Printing Terms (Salt Lake, 1923) に依る。尙譯語を就ては註三參照。

註六 "The art, or practice of taking impressions from ink-covered types, plates or other surfaces containing a design, upon paper or similar material." R. T. Porte, op. cit., pp. 204-5.

註七 此報告書中に於ても「印刷」なる語は、技術的用語上の廣狹兩義に用ひられ、或は技術的及通俗的兩意義に用ひられるであらう。文章前後の關係にて其意味自ら分明ならざる時は特に其孰れの意味なるやを述べるであらう。

註八 第一節參照。

註九 植字工及プレススマンが印刷工と呼ぶ場合は殆ど常に彼等自身を指す。C. H. Barnett, 其著前掲の The Printers, A

Study in American Trade Unions に於て植字工を印刷工と呼んで居る。本篇に於ては斯る場合に大體に印刷工なる名稱を用ふるを避け、夫々植字工及プレススマンと呼ぶに努めた。又プレススマンも多くはプレススマン、其助手及ウエツフ、プレススマン新聞印刷機プレススマン等を總稱する意である。

註一〇 Barnett, p. 131.

註一一 輪轉機にあつては、版も紙も夫々一個の圓筒の表面に置かれ、此二個の圓筒が相接しつゝ廻轉する際其接觸點に於て印刷せらるゝものである。鉛版又は電版版は此圓筒の表面に固着せしめらるゝやう彎曲さるゝに反し、原活字より組める版は彎曲せしめられぬのである。

註一二 凸版印刷は其製品の印刷されたる文字又は模様部分がさすれば紙面より凹み、紙背に之に伴ふ隆起を見勝ちであり、平版にはかゝる現象全くなく、凹版の場合には、印刷されたる文字又は模様上のインキが多少の差こそあれ紙面より高まる。又寫真網版は新聞紙の挿繪の場合に點と點との間の距離大であるから肉眼にても其繪が點より成る事を認められる。新聞紙以外の場合には、寫真網版は多くは光澤紙に印刷せられ點と點との間の距離は小なるが爲め、肉眼にては特に注意せざれば其繪が點より成る事を認め難い。グラヴィアは多く茶褐色灰黒色青色にて印刷せられ、半調色の部分を見れば點より成つて居ぬ事が解る。以上是等諸種の印刷物識別法の最簡單なものである。

凸版平版凹版の製品の性質の主要なる相違點を述べれば、凹版印刷物は一般に美術品であり、寫真凹版(フォトグラヴィア)を別とすれば、凸版及平版印刷物に比し高價である。凸版印刷物の大部を占むる活版印刷物を現代生活の必需品とすれば、凹版印刷物は一般に贅澤品と看做し得る。平版の大部分を占むる石版も過去に於ては、美術印刷の贅澤品のみを製して居たのであつて、最も熟練せる手工の結果であり従つて高價であつた。併し次第に方法が改良せられ、殊に寫真工學的方法を使用するに及んで、製品の性質は全く一變し、現在は相當美術的なる製品を機械に依り大規模に廉價に生産するを得るに至つた。前記の通り其製品の範圍は頗る廣く、一體に現代生活の美化に貢献し、云はゞ現代生活の準必需品的慰安品を提供して居るさ見られる。斯の如く贅澤品たる性質を失ふ傾向は活版に於ても凹版に於ても多少見らるゝ所である。

以上に述べた印刷過程に於る諸職業は一般に何れも熟練を要する作業を含む。殊に各種寫眞製版術には相當高き程度の寫眞工學的及化學的知識を必要とするが、他の製版術に於ても最高の手工的熟練審美眼等を必要とし、何れも劣らざる熟練工である。植字工も敏速正確なる作業をなす熟練工なるに加へて、其作業は特に多くの知的要素を含むで居る。プレッメンも亦複雑なる機械を取扱ひ、種々の精密なる作業をなす熟練工である。之等に比して、製本は特種の物を除き一般に少しく程度低き熟練を要し、殊に機械に依る雜誌類の製本及發送はむしろ不熟練勞働と看做され得る。而して是等の内植字及鉛版電胎版製造は、主に鉛の細粉及燐解されたる金屬の熱の爲めに他に比して最も不快不衛生の作業である。又寫眞製版作業は化學的藥品を取扱ふが爲め他よりも危険が多い。併し何れも特に不衛生又は特に危険なる職業ではない事は現在に於ては一般に認められた所である。(註一三)又印刷業に於る諸作業は二三のものを除いて一般に知的要素を含むで居る。植字工の如き相當の英語の力を具へねばならず、其取扱ふ製品の性質上作業其物が教育的である事は重要な特性である。又印刷業は主として注文に應じて生産し、通則として其製品の内容は何れの職業に於ても常に變化して行く。従つて作業の單調より來る苦痛は、比較的少ないと云へる。是等印刷業各職業の性質は、其勞働運動を形成する最も根本的な要因と看做し得やふ。

大なる印刷工場に於ては、植字、鉛版又は電胎版製版、寫眞網版製版、寫眞凹版製版及以上の過程に依つて準備されたるもの、印刷作業及製本發送まで一工場内にて行ふ事がある。大新聞社の印刷工場の如き其例である。併し又他の極端に、是等各作業を専門的に行ふ專業工場が多数存在し、寫眞製版、製本等は斯る專業工場に於てなされ、場合が却つて普通であり、植字及電胎版の製造が斯る專業工場にて行はるゝ場合も亦多い。(註一四)併し石版印刷に於ては未だ斯る分業は餘り行はれて居らず、木版及凹版印刷(寫眞凹版を除き)は其事業の一般に小規模なる性質上、當然小工場内にて全作業が行はれて居る如くである。

以上の各印刷過程の分類は、統計作業を目的とする分類と異なるが故に、是等各過程の比較的重要性を示す事は殆ど不可能である。(註一五)唯次の四種類の重要性比較がなされるのみである。

第一表 紐育市印刷業に於る賃銀勞働者數、賃銀總高及製品價格(1923年)

	賃銀勞働者數	賃銀總高	製品價格
印刷及出版(c)	48,489	\$ 89,014,334	\$ 482,211,420(c)
平版印刷(c)	4,903	8,422,689	26,862,302(c)
銅版及鋼版製版印刷(d)	2,332	3,602,790	11,641,905(e)
木版	47	46,391	143,979(e)

a. 一九二三年「製造工業統計」(Census of Manufactures, 1923, pp. 1426-29)より作る。年産五千非以下の工場を含みます。
 b. 印刷及出版は此處にては、書籍雜誌、新聞、臨時物、樂譜の印刷及出版業、印刷工場内及專業的工場にて行はるゝ製本帳簿製造、鉛版、電胎版、寫眞網版等を含む。

c. 平版印刷は石版及寫眞平版を含む。コロタイプを含むを否や不明である。
 d. 凹版印刷である。併し寫眞凹版を含むを否や不明である。

e. 是等數字は恐らく誇大されて居るであらふ。何となれば印刷が專業的工場で分業的に行はれる場合各工場に於る價格が重複計算されるが故である。

斯の如く右表は甚だ鮮明を欠いては居るが、大體に於て、活版印刷を中心とする産業の集團即ち活版印刷、鉛版及電胎版製版、寫眞網版製版、製本等が、他の三印刷業に比して遙に重要な事を推測するに充分であらう。(註一六)又以上の内木版を除く三印刷業の過去數年間に於る發達の速度に見ても、活版印刷を中心とする一團は、平版凹版二業と略々同速度を以て發達して居る。(註一七)故に今後も何等か重大なる發明の無き限りは、活版印刷を中心とする過程集團の優勢は變らぬものと見られるのである。而して此最も重要な一團中の産業間の比較的重要性は、精密に之を示す事は殆ど不可能であるが、活版が其中心をなし他の過程が之に對して補足的從屬的なものである事は明白である。同時に又大量の印刷をなすに當つては、是等の孰れの一をも欠く事が出来ぬ事も明白である。一過程の盛衰は他のすべての過程の盛衰の如何にかゝて居る。若しも一過程に停頓を來させば、他の全過程は其影響を免れない。或種類の印刷物の場合に於ては、木版も此云はゞ印刷過程環とも稱すべきものゝ一連鎖をなすものである。

之に反して、寫眞凹版以外の凹版印刷及石版印刷は、是等二者相互間にも、又前記活版を中心とする過程の集團に對しても、殆ど直接には關係を有しない。時には是等の過程に依つて書籍雜誌の挿繪を印刷する事もあるが、是等は又自身獨立の製品を有し、前掲各過程に對して何等密接なる補足的從屬的關係を有しない。のみならず是等二過程は屢々活版印刷の代用品を作りこみする。其最も顯著なる場合は、用箋、招待狀、賀狀、番組、獻立、名刺、其他の所謂臨時物の印刷であつて、此場合は凸版平版凹版の何れに依るも印刷され得る。故に是等三部門に大別されたる過程間の關係は補足的よりはむしろ代替的である。

註一三 J. W. Sullivan, The Printer's Health, The Typographical Journal, 1903, November, reprinted in, J. R. Commons (Editor), Trade Unionism and Labor Problems (Boston, 1905), pp. 431-53. は植字作業の不衛生なるを強調して居るが、其後、此論文の筆者が其文末で樂觀的に期待した通りに諸種の設備、方法の改善が行はれ、従つて今日では特に不衛生な作業でなくなつたのである。植字作業以外の諸作業に就ても同様である。S. Kjaer, Survey of Hygienic Conditions in the Printing Trades (Washington, D. C., 1925), F. L. Hoffman, Health Survey of the Printing Trades, 1922 to 1925 (Washington, D. C., 1927) 參照。

註一四 筆者は斯る專業工場を必然小規模のものと思像し居るを、Printers' League の Silcox 氏より、筆者の誤なる事を後に至つて指摘された。氏の云ふ所に依れば、他の印刷工場の注文を受けて植字のみを行ふ工場の中には、植字機械二〇臺を使用するものがある事の事である。

註一五 「製造工業統計」は印刷及出版を常に一括して現して居るが爲め、又、鉛版電胎版製版工、寫眞網版製版工、製本工等の中、「印刷工場内に働く者を個別的に示して居る爲め、又「人口統計」(Census of Population)は製本工、寫眞網版製版工の数を個別的に示して居る爲め、此處に述べた各過程の比較的重要性を示す事は殆ど不可能である。

註一六 尙今米國に對する此點に就いて F. L. Hoffman, Health Survey of the Printing Trades, 1922 to 1925, p. 3. Table 1. 參照。
註一七 是等三印刷業の全米及紐育市に於る發達の速度は次の如くである。

全米(CSSO-1925, 4年刊)及紐育市(C1919-1925, 4年刊)印刷業三部門に於る平均勞働者數及製品價格増進指數(C1919年を100とす) (a)

年	印刷及出版(1)		平版印刷		鉛版製版印刷	
	勞働者數	價格	勞働者數	價格	勞働者數	價格
1889	56	18	62	25	33	14
1899	67	23	83	30	47	21
1904	76	32	81	35	51	25
1909	89	43	97	47	76	39
1914	93	53	97	54	98	57
1919	100	100	100	100	100	100
1921	94	119	89	109	102	119
1923	101	131	104	125	107	134
1925	103	148	109	135	103	133

B 紐育市						
年	印刷及出版(1)	平版印刷	鉛版製版印刷	勞働者數	價格	勞働者數
1919	100	100	100	100	100	100
1921	98	116	85	104	100	116
1923	100	127	94	110	98	133
1925	95	137	90	109	99	131

(a) Census of Manufactures, 1921, pp. 614, 653, 657; 1923, pp. 597, 632, 655; 1925 (Preliminary Report, Printing and Related Industries), pp. 6, 36, 38; 1920, pp. 1060-61, 1064-67; 1921, pp. 1564, 1565, 1566; 1923, pp. 1427-28; 1925 (Preliminary Report, General Statistics), pp. 142-3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 100, 101, 102, 103, 104, 105, 106, 107, 108, 109, 110, 111, 112, 113, 114, 115, 116, 117, 118, 119, 120, 121, 122, 123, 124, 125, 126, 127, 128, 129, 130, 131, 132, 133, 134, 135, 136, 137, 138, 139, 140, 141, 142, 143, 144, 145, 146, 147, 148, 149, 150, 151, 152, 153, 154, 155, 156, 157, 158, 159, 160, 161, 162, 163, 164, 165, 166, 167, 168, 169, 170, 171, 172, 173, 174, 175, 176, 177, 178, 179, 180, 181, 182, 183, 184, 185, 186, 187, 188, 189, 190, 191, 192, 193, 194, 195, 196, 197, 198, 199, 200, 201, 202, 203, 204, 205, 206, 207, 208, 209, 210, 211, 212, 213, 214, 215, 216, 217, 218, 219, 220, 221, 222, 223, 224, 225, 226, 227, 228, 229, 230, 231, 232, 233, 234, 235, 236, 237, 238, 239, 240, 241, 242, 243, 244, 245, 246, 247, 248, 249, 250, 251, 252, 253, 254, 255, 256, 257, 258, 259, 260, 261, 262, 263, 264, 265, 266, 267, 268, 269, 270, 271, 272, 273, 274, 275, 276, 277, 278, 279, 280, 281, 282, 283, 284, 285, 286, 287, 288, 289, 290, 291, 292, 293, 294, 295, 296, 297, 298, 299, 300, 301, 302, 303, 304, 305, 306, 307, 308, 309, 310, 311, 312, 313, 314, 315, 316, 317, 318, 319, 320, 321, 322, 323, 324, 325, 326, 327, 328, 329, 330, 331, 332, 333, 334, 335, 336, 337, 338, 339, 340, 341, 342, 343, 344, 345, 346, 347, 348, 349, 350, 351, 352, 353, 354, 355, 356, 357, 358, 359, 360, 361, 362, 363, 364, 365, 366, 367, 368, 369, 370, 371, 372, 373, 374, 375, 376, 377, 378, 379, 380, 381, 382, 383, 384, 385, 386, 387, 388, 389, 390, 391, 392, 393, 394, 395, 396, 397, 398, 399, 400, 401, 402, 403, 404, 405, 406, 407, 408, 409, 410, 411, 412, 413, 414, 415, 416, 417, 418, 419, 420, 421, 422, 423, 424, 425, 426, 427, 428, 429, 430, 431, 432, 433, 434, 435, 436, 437, 438, 439, 440, 441, 442, 443, 444, 445, 446, 447, 448, 449, 450, 451, 452, 453, 454, 455, 456, 457, 458, 459, 460, 461, 462, 463, 464, 465, 466, 467, 468, 469, 470, 471, 472, 473, 474, 475, 476, 477, 478, 479, 480, 481, 482, 483, 484, 485, 486, 487, 488, 489, 490, 491, 492, 493, 494, 495, 496, 497, 498, 499, 500, 501, 502, 503, 504, 505, 506, 507, 508, 509, 510, 511, 512, 513, 514, 515, 516, 517, 518, 519, 520, 521, 522, 523, 524, 525, 526, 527, 528, 529, 530, 531, 532, 533, 534, 535, 536, 537, 538, 539, 540, 541, 542, 543, 544, 545, 546, 547, 548, 549, 550, 551, 552, 553, 554, 555, 556, 557, 558, 559, 560, 561, 562, 563, 564, 565, 566, 567, 568, 569, 570, 571, 572, 573, 574, 575, 576, 577, 578, 579, 580, 581, 582, 583, 584, 585, 586, 587, 588, 589, 590, 591, 592, 593, 594, 595, 596, 597, 598, 599, 600, 601, 602, 603, 604, 605, 606, 607, 608, 609, 610, 611, 612, 613, 614, 615, 616, 617, 618, 619, 620, 621, 622, 623, 624, 625, 626, 627, 628, 629, 630, 631, 632, 633, 634, 635, 636, 637, 638, 639, 640, 641, 642, 643, 644, 645, 646, 647, 648, 649, 650, 651, 652, 653, 654, 655, 656, 657, 658, 659, 660, 661, 662, 663, 664, 665, 666, 667, 668, 669, 670, 671, 672, 673, 674, 675, 676, 677, 678, 679, 680, 681, 682, 683, 684, 685, 686, 687, 688, 689, 690, 691, 692, 693, 694, 695, 696, 697, 698, 699, 700, 701, 702, 703, 704, 705, 706, 707, 708, 709, 710, 711, 712, 713, 714, 715, 716, 717, 718, 719, 720, 721, 722, 723, 724, 725, 726, 727, 728, 729, 730, 731, 732, 733, 734, 735, 736, 737, 738, 739, 740, 741, 742, 743, 744, 745, 746, 747, 748, 749, 750, 751, 752, 753, 754, 755, 756, 757, 758, 759, 760, 761, 762, 763, 764, 765, 766, 767, 768, 769, 770, 771, 772, 773, 774, 775, 776, 777, 778, 779, 780, 781, 782, 783, 784, 785, 786, 787, 788, 789, 790, 791, 792, 793, 794, 795, 796, 797, 798, 799, 800, 801, 802, 803, 804, 805, 806, 807, 808, 809, 810, 811, 812, 813, 814, 815, 816, 817, 818, 819, 820, 821, 822, 823, 824, 825, 826, 827, 828, 829, 830, 831, 832, 833, 834, 835, 836, 837, 838, 839, 840, 841, 842, 843, 844, 845, 846, 847, 848, 849, 850, 851, 852, 853, 854, 855, 856, 857, 858, 859, 860, 861, 862, 863, 864, 865, 866, 867, 868, 869, 870, 871, 872, 873, 874, 875, 876, 877, 878, 879, 880, 881, 882, 883, 884, 885, 886, 887, 888, 889, 890, 891, 892, 893, 894, 895, 896, 897, 898, 899, 900, 901, 902, 903, 904, 905, 906, 907, 908, 909, 910, 911, 912, 913, 914, 915, 916, 917, 918, 919, 920, 921, 922, 923, 924, 925, 926, 927, 928, 929, 930, 931, 932, 933, 934, 935, 936, 937, 938, 939, 940, 941, 942, 943, 944, 945, 946, 947, 948, 949, 950, 951, 952, 953, 954, 955, 956, 957, 958, 959, 960, 961, 962, 963, 964, 965, 966, 967, 968, 969, 970, 971, 972, 973, 974, 975, 976, 977, 978, 979, 980, 981, 982, 983, 984, 985, 986, 987, 988, 989, 990, 991, 992, 993, 994, 995, 996, 997, 998, 999, 1000.

(b) 此場合の印刷及出版には、鉛版電胎版製版業寫眞製版業製本業等各種專業工場を含みます。其他に就ては、第一表b、c、d、参照。

最後に印刷業の性質を観察して見るならば、先づ第一に、印刷業の中で臨時物印刷業は最も小規模にして、是より他の中間的諸印刷業を経て、比較的最も大規模なる新聞雜誌書籍の印刷業に至るまで、相異なる程度の規模の生産を含む産業なる事を擧げればならぬ。紐育市の新聞書籍雜誌樂譜臨時物の印刷業に於る平均賃銀勞働者数の一工場當り平均数は一・六一である。他の部門に於ては、木版業に於る一・七人を最低とし、平版業の五〇人を最高とする。(註一八)而も全米國に對する平均數に比較すれば、紐育市に於ては印刷業が比較的集中されて居る事を知るのである。(註一九)而して一九二二年に於て紐育市印刷工場的大部分が存在するを云はるゝマンハッタン區五九丁目以南に於る二、一〇三印刷工場の内、一、五九四工場は一人乃至一九人を使用し、其内四三〇工場は一人乃至二人を使用して居る。(註二〇)更に又一九〇〇年より一九二二年に至る期間の傾向を見るに、マンハッタン區五九丁目以南に於て、斯る小工場は減ずるよりもむしろ増しつゝ、あるが如く見える。即ち一九〇〇年には同區域に於る印刷工場の六七・一%が一人乃至一九人を使用して居たが、一九一二年には七二・四%、一九一七年には七三%、一九二二年には七五・七%となつて居る。(註二一)一般に印刷業は重い工場設備を必要とせぬのであるから、此比較は一應全印刷業が分散的なる事を示して居るもの、如く見られるが、更に職工總數を見れば、一〇〇人以上を使用する工場に働く職工總數は九九人以下を使用する工場に働く職工總數は略々伯仲して居る。(註二二)故に全印刷業を一概に分散的なりとは云へないのである。印刷業中臨時物印刷業は、大會社大商店にて用ふる種々の傳票類の如き例外を除けば、通則として極めて小批の注文を受けて生産するものであり、其注文の内容は多種多様であり、加ふるに多くは至急注文なる關係上顧客は自然工場に近き區域内に限らるゝ等の理由に依り、必然的に大規模生産には不適當である。木版印刷業も其性質上當然小規模なるを推測しても誤はないであらふ。銅版鉛版の印刷業は有價證券の印刷の如き相當大量のものもあるが、是亦其製品の性質上餘り大なるを得ない。寫眞製版業、鉛版電胎版製版、平版印刷業は、右の諸業に比して相當の工場設備を要し、従つて餘り小規模の生産には適さない。斯くの如く印刷業には、相異なる程度に集中及分散的産業が相並立して居るのであつて、此分散的性質を有する産業の存在は、他のより集中的なる産業に於るよりも同業に於ては、勞働者の勞働者としての身分の恒久性の少き事を意味し、従つて他の條件が等しいとすれば、自然他のより集中的なる産業に於るよりも勞働者間に階級意識の少き事を意味するのである。印刷業に於ては、鉛版、電胎版、寫眞製版業を除く他、殆ど何れの作業に従事する勞働者も、小額の資本を手に入れさへしたならば、其土地又は他のより有望なる土地に於て小規模印刷工場或は何等かの專業工場を開業し所謂 "One-man shop" を經營して、勞働者の地位を脱出し得るであらふ。又一方に於て斯る小規模産業は其雇傭關係の統一困難なるが故に、斯る小規模仕事場の存在は二重の意味に於て勞働運動に對する一個の重要な障礙を意味するのである。

次に印刷業が無季節的の産業なる事も見逃すべからざる特性である。(註二二)書籍新聞雜誌樂譜臨時物印刷業に於ては、大體に於て歲末に最多數の勞働者を使用し、夏季に最少數の勞働者を使用するのであるが、其最大限と最少限との差は極めて小であつて、無季節的の産業と看做すも差支へがない。又臨時物印刷、平版印刷等、出版界よりもむしろ商業、工業を顧客とする印刷業は、多種の産業より注文を受ける結果各個産業の季節變動の影響を受けざるものと推測して大過ないであらふ。斯の如く印刷業は無季節的の産業であり従つて勞働者の位置は比較的安定されて居るのである。

更に又印刷業殊に活版業に於ては、織物業炭坑業其他に見るが如き、勞働運動上の支障となる人種の不統一の無き事も重要な特性の一として數ふべきであらふ。(註二三)是は主として作業及事業の性質上、外國勞働の輸入に依る急激な發達不可能なりし爲めである。

其他、印刷業が必需品準必需品を供給し、多くの知的要素を含み、美術工藝の性質を有する産業なる事は、勞働者に對し精神的に影響を與へずには置かぬと信ぜられる。

之等に加へて、印刷業が、都市を主なる市場とし且つ輕工業なる性質上從來都市に定着して來たが、近來交通機關の完備と大都會の發達が印刷工場の經濟的經營に過度なる傾向を現せる事との理由に依り、全國市場を目標とする印刷乃至は其他大量の書籍雜誌臨時物にしてミウズ事項の重要ならざるもの、印刷工場に限り、經濟的に大都會より離れ得る可能性を示して來、同時に又斯る種類の印刷物に對する注文が、大都會の工場より地方都市の工場へ移る可能性を示して來た事も亦附言せられねばなら

ぬ。此移動は大都會並に地方都市の印刷業勞働運動に幾多の問題を與ふるであらふ。(註二四)

此最後の性質は紐育の如き大都會に特に著しい所であるが、此他紐育市印刷業の性質とも云ふべきものとしては、同市は有名な移民の都にして外國文の印刷物が他の都市に比して遙に多き點を擧げ得るに止まる。(註二五)是等の他には紐育印刷業其物としての性質として確認されるものは見當らない。(註二六)

註一八 Census of Manufactures, 1923, p. 1426, et seq. より左の表が作られる。

業種(第一表参照)	工場數	平均賃銀 勞働者數	平均一工場 賃勞者數
木版業	四	四七	一一・七
印刷及出版	二,二九四	三七,一三一	一六・一
製本及帳簿類製造	三三九	七,六六七	二二・六
銅、銅版印刷	七九	二,三三二	二九・五
鉛版電胎版製版(專業工場に於る)	二八	一,〇〇九	三六
寫眞製版 (同 前)	七一	三,六八二	三七・七
平版印刷	九八	四,九〇三	五〇

註一九 Census of Manufacture, 1923 分册 Printing and Publishing and Allied Industries, pp. 8, 38, 43, 46. に依れば、全國に於る一工場當平均勞働者は次の如くである。

印刷及出版	一一・一人
銅、銅版印刷	二〇人
製本業及帳簿類製造業	二一・五人
平版印刷	四九・七人

註二〇 A. K. Klenichs, Regional Plan of New York and Its Environs, Economic and Industrial Survey, The Printing Industry in New York and Its Environs (New York, 1924) pp. 47-53; Appendix, Table A. に依れば左の如くである。

一工場使用勞働者數 人	工場數	勞働者數總計 人
1-19	1,594	9,962
20-49	314	9,506
50-99	110	7,615
100-499	73	14,907
500-999	7	5,219
1000以上	5	6,664

此内に含まる業種は、書籍及臨時物、新聞、樂譜の印刷、製本、平版印刷、寫眞製版、彫刻製版、鉛版電胎版製版、植字其他である。

註二一 Ibid. p. 47 Table A. より一九〇〇年以來マンハッタン區五九丁目以南印刷工場總數に對する一人乃至一人使用の工場の割合次の如く現れる。

年	十九人以下使用 の印刷工場數	印刷工場總數	小工場數の工場總 數に對する割合 %
1900	780	1,162	67.1%
1912	1,235	1,732	72.4
1917	1,417	1,939	73
1922	1,594	2,103	75.7

註二二 Census of Manufactures, 1923, p. 1140 et seq.; Census of Manufactures, 1925, 分册 Printing and Publishing and Related Industries, pp. 9-11. 参照。

註三三 L. M. Powell, History of The United Typothetae of America (Chicago, 1926), p. 1-14 「印刷業従業員は大部分米國に出生れたる米國民なり」を以て The Committee of Elimination of Waste in Industry of the Federated American Engineering Societies, Waste in Industry (Washington, D. C., 1921) p. 194 及「(印刷業)勞働者数の六八%は米國にて生れたる者である。是は金屬工業に於る同様の比率(三〇%)及建築業に於る夫(二五%)に比すれば高率である。」と云つて居る。是等の叙述の基く所は不明であるが Census of Population, 1920, p. 1158 et seq. に依れば、紐育市印刷業に於る一〇歳以上の男女勞働者の内、米國生まれ白色人種勞働者数の總勞働者數に對する割合は次の如くである。

職 業	總勞働者數	米國生白色人種		其他	總勞働者數に對する白色人種米國生勞働者數の比(%)
		總勞働者數	米國生白色人種		
植字工	20,823	14,084	6,739	67.6	
鉛版電胎版製版工	818	691	127	84.5	
プレスメン及銅版	2,455	1,969	486	80.2	
銅版印刷工	2,276	1,637	639	71.9	
平版印刷工	8,094	5,254	2,840	64.9	
印刷業出版業及製版業に於ける準熟練工	789	482	307	61.1	
印刷業出版業及製版業に於る一般勞働者					
子					
植字工	606	473	133	78.1	
印刷業出版業及製版業に於る準熟練工	5,428	4,783	645	88.1	
男女全體業	41,289	29,373	11,916	71.1	

「其他」は外國生まれ白色人種、黒人、米國印度人、支那人日本人等である。又女子勞働者は以上二種の外數字が無い。

以上の如く、鉛版電胎版製版工、プレスメン、銅版銅版印刷工及女子職工等に於て最も高率である。植字工の場合には殊に英文を取扱ふものであるから高率であるべきであるが、事實左程高率ならざるは後に述ぶるが如く(註二五參照)紐育市に外國文印刷の多き爲めであらうと思はれる。

尙之等比率を、全米國各種職業に於る同様な比率が次の如くなるに比較すれば、印刷業に於る比率は各産業中相當高率にして、其屬する製造工業及機械工業の平均率に比すれば殊に高率なるを發見する。(Census of Population, 1920 p. 341 参照。)

職 業	米國生白色人種勞働者數の總數業者數に對する比率 (%)
農業	71
農林業牧畜業	71
鑛山業	58.5
製造工業及機械工業	64.5
交通運輸業	71.7
商業	76.1
公共奉任的職務に従事する者 (Public Service) にして他の部門に含まれざる者	76.6
専門的知能に依る職業 (Professional Service)	85.3
家庭被僱者及個人的奉仕業 (Domestic and personal service)	44.8
事務員	90.2
全職業	69.4

註二四 此事項に就ては本篇には是以上言及せず。他日機會を見て論述したいと思ふ。
 註二五 勞働組合に屬する植字工にして獨逸文以外の外國文植字工の數は、紐育市に四三五人他の米國都市全部に約一五七人、獨逸文植字工は紐育市の一八二人に對し他市合計約三七六人である。是は The Typographical Journal, August, 1927,

Reports of Officers to Seventy-second Session of the International Typographical Union, pp. 93-98 の同組合各支部員數の表より諸市の外國文支部員(第三節及第四節參照)を調べたるものであるから、支部をなすに足らざる程の外國文植字工の數にて英文植字工支部員の數の内に隱るゝものも若干ありと思はる。

註二六 但し前述の如く(註一八及一九參照)紐育市印刷工場の規模が幾分全國平均よりも大なる事より、或は紐育大中印刷工場に他市に於る大印刷工場に於るより以上の大規模經營のもの多からざるやうに思はれるが、此點に就て今何等の事實を有しなす。

三 勞資團體表 (註二七)

勞働組合機關雜誌最近發行の分、(註二八)“Commercial and Industrial Organizations in the United States”(註二九)及“Handbook of American Trade Unions”(註三〇)から、紐育市印刷業勞資團體の二つの表を次の如く作つて見た。

(一) 勞働組合

北米國際活版印刷工組合 (The International Typographical Union of North America)
紐育市支部

紐育市活版印刷工組合、支部第六 (New York Typographical Union No. 6)

同前、支部第八三(猶太文)

同前、支部第一三一(オーストリア文)

同前、支部第二六一(伊太利文)

同前、支部第四四〇(匈牙利文)

同前、支部第八一六(波蘭土文)

同前、支部第八一七(希臘文)

獨米活版印刷工組合 (German-American Typographical Union) 支部第七

發送工組合 (Makers' Union) 支部第六

北米國際活版印刷工及助手組合 (The International Printing Pressmen and Assistants' Union of North America) 紐育支部

紐育市活版印刷工組合、支部五一 (New York Printing Pressmen's Union No. 51)

紐育市印刷助手組合、支部二三 (New York Printing Press Assistants' Union No. 23)

紐育市新聞印刷工組合、支部第二 (New York Newspaper Printing Pressmen's Union No. 2)

紙取扱工及紙延工組合、支部第一 (Paper Handlers and Sheet Straighteners' Union No. 1)

國際製本工組合 (The International Brotherhood of Bookbinders) 紐育市支隊

製本工組合支部第六 (Bookbinders' Union No. 6)

同前、支部、第九

同前、支部、第二五

同前、支部、第二五A

女子製本工組合、支部第四三 (Bindery Women's Union No. 43)

紐育紙斷工組合、支部一一九 (New York Paper Cutters' Union No. 119)

北米國際鉛版及電胎版製版工組合 (The International Stereotyp err, and Electrotypers' Union of North America) 紐育市支隊

紐育鉛版製版工組合、支部第一

紐育電胎版製版工組合、支部第一〇〇

北米國際寫眞製版工組合 (The International Photo-Engravers' Union) 紐育市支部

紐育寫眞製版工組合、支部第一

全米平版印刷工同盟 (The Amalgamated Lithographers of America) 紐育支部

支部組合第一 (Local Association No. 1)

北米國際銅版彫刻印刷工組合 (The International Plate Printers, Die Stampers and Engravers' Union of North America) 紐育支部

組合支部第五

同前、第八

同前、第一五

國際銅版印刷工協會 (The International Association of Siderographers)

一 紐育支部 (註三二)

ホヌタマ諸工組合 (註三三)

(二) 雇主組合 (註三三)

紐育活版印刷業者協會、活版印刷業者聯盟會 (Printers' League Section, New York Employing Printers Association)

紐育出版業者協會 (Publishers' Association of New York)

紐育市及近郊電版鉛版製版業者組合 (The Employing Electrotypers' and Stereotypers' Association of New York and Vicinity)

紐育寫眞製版業者協會 (Photo-Engravers' Board of Trade of New York)

紐育市及近郊寫眞凹版印刷業者組合 (Employing Gravure Printers of New York and Vicinity)

全米平版印刷業者協會紐育支部 (New York Branch of the Lithographers National Association)

紐育製本業者組合 (Employing Bookbinders of New York)

紐育製本業者及帳簿製造業者協會 (Master Bookbinders and Paper Rulers' Association of New York)

註二七 ロムビン大學生勞資關係圖書館及筆者自身より、是等總べての團體に對し、其規約及勞働契約書の惠贈方依頼の書狀を發し、(但し名宛所不明なる二團體を除く)、或團體には此上に質問状をも差出した。斯く書狀を發したる勞働組合は

六の中前六組合、雇主組合の中三が、是等依頼に應じて呉れた。併し幸かも、是等は、紐育市印刷業に於て最も重要な勞資團體であつた。

註二八 The Typographical Journal. The American Pressmen. The American Photo-Engraver. The International Book-binder. The International Stereotypers' and Electrotypers' Union Journal. Lithographers' Journal. Plate Printers.

右の内第一は International Typographical Union の機關雜誌、第六は International Plate Printer, Die Stampers and Engravers' Union の機關雜誌である。其他の二は説明を要するに及ばない。

註二九 United States Department of Commerce, Domestic Commerce Series No. 5, Commercial and Industrial Organizations of the United States, Revised edition (Washington, D. C., 1926)

註三〇 United States Bureau of Labor Statistics, Bulletin No. 420, Handbook of American Trade-Unions (Washington, D. C., 1920)

註三一 註五四参照

註三二 The Amalgamated Lithographers of America の機關雜誌 Lithographers' Journal 一九二〇年一月には、Poster Artists' Union と同組合との合同提案に就て數行の簡単な報告文が載つて居る。P. A. U. に就ては此他に何の情報を得る事も出来なかつた。一九一四年平版業に於る數個の職業勞働組合が合同して現存する組合を組織したる際、P. A. U. 及平版印刷工助手組合 (Press Feeders' Union) は此合同に参加する事を肯じなかつた。其理由は、ホヌタマ印刷に於ては此二組合は事實上全過程に對する勞働者を供給し得た結果、此二組合の協力に依つて前記合同組合 Amalgamated Lithographers of America 對抗し得た事であつた。但し印刷工助手組合は其後一九一八年 Amalgamated に併合される事になつた。P. A. U. に就ては A. L. of A. へ質問書を差出したるも返事がなかつた。P. A. U. 其名宛所も不明であつた。

註三三 是等雇主組合の他にも、恐らく全米銅版印刷業協會の紐育支部が存在して居る事と思はれるのであるが其名宛所第二十三卷 (一七一三) 紐育市を中心として見たる米國印刷業勞資團體の沿革及組織 第十一號 一六五

が不明である。又當市には American Association of Foreign Language Newspapers なる團體が存在するが、筆者よりの質問書にも返答を與へず、且他には此團體に就て何の情報を得る事も出来なかつた。

四 勞資團體の沿革及組織——勞働組合

活版印刷業は印刷業中量質共に最も重要な部門であり、植字及印刷(狹義の)は其活版印刷業の最も基本的なる過程である事は前に述べた。(第二節参照)印刷業に於る勞働運動に就ても、是等過程は、過去に於ては夫から現存する勞働組合の多くが生れて來た所の源泉となり、現在に於ては其上に印刷業勞資關係の殆ど全組織が建てられて居る所の基礎を提供して居る。

一七九四年に米國印刷業最初の勞働團體紐育活版印刷組合(New York Typographical Society)が組織された。(註三四)斯くして其時迄相互に連絡を欠いた、而して斷續的であつた印刷工の勞働生活改善に對する努力は、多少永續性を有し組織的である團體交渉に依つて取つて替られる事となつた。此組合は二ヶ年半にして消滅したが、以後更に四の組合が組織され又消滅する間に、紐育以外の主要都市に於ても組合は漸次發達し、一八三六年より翌三七年に亘る全國的大會に依る一時的結合の後、一八五二年終に組合員二、〇〇〇名支部一四を有する全國的の印刷工組合の成立を見るに至つた。(註三五)此 National Typographical Union は、後に北米國際活版印刷工組合と名を改めて現在に及んだのである。而して一八五二年全米活版印刷工組合成立當時の紐育組合は紐育印刷工組合(New York Printers' Union)と稱したが、全國的組合の一支部となるに際し、他の二三都市の組合と共に抽籤に依りて支部番號を決定したる結果、此處に現存する紐育活版印刷工組合、支部第六が生れたのであつた。(註三六)

是等初期の各都市組合は、其當初より植字工及プレスメンを組合員として居たが如くである。(註三七)當時は未だ植字と印刷作業(狹義の)の間に分業が發達して居なかつた。一八七〇年頃に至つても猶プレスメンは植字工に依りて彼等自身同様「Printer」と稱せられて居た。併し印刷機械の改良は絶えず分業の明確なる區劃を齎し、プレスメンは次第に植字作業に技能を有せざる專問的職工となりつゝあつたのである。印刷業全般の作業の支配權を保持せんとしたる活版印刷工組合の努力も此大勢の前には如何ともし難く、一八八九年に組合脱退のプレスメンの組織せる國際印刷工組合(International Printing Pressmen's Union)との數年に亘る對抗の後、一八九五年活版工組合は印刷工組合を承認し、プレスメンに對する支配權を放棄した。(註三八)

製本作業は其當初より活版作業との間に分業の區劃明なる作業である。彼等は獨立して都市組合を組織して居たが、一八五二年全國的活版印刷工組合が出現して印刷業勞働者全部を包含する全國的組合たらんとするに及び、之に参加した。併し乍ら事態は製本工にとつても不満足に進展した。彼等の或者は全國的活版印刷工組合より獨立せる製本工の都市組合に屬し、他の或者は勞働騎士團(Knights of Labor)の旗下に集まつた。是等二者及活版工組合より脱退せる製本工は、一八九二年に至り合同して國際製本工組合(International Brotherhood of Bookbinders)を組織し全國的活版印刷工組合と對抗した。而して一八九五年プレスメンと同時に全國的活版印刷工組合と和議を結び、後者は製本工に對する支配權をも放棄する事となつた。斯の如く終始通じて活版印刷工組合に屬し

たものは製本工の一小部分に過ぎなかつた一理由として、熟練工の團體なる活版印刷工組合の入會費が、むしろ不熟練工に屬する一般製本工にとり、高さに過ぎた事が擧げられて居る。(註三九)

鉛版電胎版製版術、寫眞製版術は以上三作業に遙に遅れて現れ、當初は全國的活版印刷工組合に屬したが、後にプレスメンと略同様な徑路を経て夫々一九〇二年及一九〇四年に獨立の全國的組合を承認さるゝ事となつた。斯くして北米國際鉛版電胎版製版工組合(International Stereotypers' and Electrotypers' Union of North America) 及北米國際寫眞製版工組合(International Photo-Engravers' Union of North America) が生まれた。

紐育に於て印刷業組合の組織は此全國的變遷に伴つて行つた。否むしろ其先導を勤めたと云つた方が正しいかも知れぬ。一八六一年に既に活版印刷工組合に屬せざるプレスメンの一都市組合が紐育に存在した。而して一八六九年には紐育活版印刷工組合はプレスメンに對する支配權を放棄して居る。一八八二年には此獨立のプレスメンを誘つて全國的活版印刷工組合に屬せしめ、紐育印刷工組合支部第九が生まれた。當時紐育には他にも獨立のプレスメン組合が存在したが、斯くする内全國的プレスメンの組織運動が擡頭し、紐育印刷工組合支部第九は全國的獨立及活版印刷工組合派のプレスメンに檄を發して、遂に一八八九年紐育にて國際印刷工組合が成立した。(註四〇) 一九〇〇年全國的活版印刷工組合と脱退寫眞製版工組合との間に紛争の進行しつゝある最中に、紐育に於ては、植字工、プレスメン、製本工、鉛版電胎版製版工各組合は、全國活版印刷工組合を脱退せる紐育寫眞版工組合を承認し相互に圓滿なる關係を持續した。紐育が印刷業最大の中心地である以上其勞働運動の展開が全國的運動に重大なる影響を與ふる事は打消し難い。

以上述べたる如く、北米國際活版印刷工組合は其成立初期に於ては明に一の産業的勞働組合たらんと試みたのである。併し分業の發達は幾多の利害關係必ずしも一致せざる職業を發生せしめ、結局活版印刷業に於る五の職業的勞働組合の並立を見るに至つたのである。其根柢に於て分業の發達に基因する所の此分解作用の動因は多々あるに相違ないが、其主なるものと推測されるのは、先づ第一に各作業の性質の相違である。而して各作業性質の相違點の多き中に特に此關係に於て重要なるは各作業に要する熟練の程度の相違と各作業に従事する勞働者數の相違である。寫眞製版工鉛版電胎製版等はむしろ植字工以上の熟練工であり製本工は植字工に比しむしろ不熟練工である。従つて是等各作業に従事する者の間には其収入額、其雇主との抗争上の地位の有利不利の程度に於て隔りがある。又植字工の數は寫眞製版工、鉛版電胎版製版工、製本工に更にプレスメンを加へたるよりも多い。熟練の度高くして數の少なる寫眞製版工及鉛版電胎版工は、數の大なる植字工に對して同一組合内に於て從屬的地位に立たんよりはむしろ獨立して、其雇主に對しより有利なる地位を自由に享樂する事を欲したであらふ。又製本工が其収入少きに比して高額の組合費寄與を、多數派たる植字工より強いられたるは前述の如くである。(註三九) 植字工より見るも製本工を其組合に含む事は殆ど何等得る所が無かつたであらふと思はれる。(註四一) 植字工が製本工を一時其組合員としたるは、其成立當初單純に全活版印刷業勞働者の團結を欲し、植字工製本工共に斯る點に慎重なる顧慮を用ひざりし結果ではなかつたかと思はれるのである。プレスメンの場合は、其熟練程度に於て

は植字工と大差無きやに見えるが、其數に於ては植字工の遙に下位に立ち、従つて植字工に依りて其利益を無視さるゝも如何ともし難かつた。(註四二)次に活版印刷業諸部門の性質として、以上各種勞働者が同一雇主の下に働くや否やも亦重要な要因である。寫真製版業、鉛版電胎版製版業、製本業は夫々通例に獨立の經營の下に在る。従つて雇主との對抗上是等三業の勞働者及植字工、プレスメンと一體となりて組合を組織することも著しき利益はない。之に反しプレスメンと植字工とは通例同一雇主の下に働く者であつて、此點に關しては二者の結合の利益は明白である。植字工が他の組合脱退の場合と比較して、プレスメンの脱退を特に重要視したが如く見ゆる一理由は此處に在ると思はれる。更に國際活版印刷工組合の分解を來たした消極的動因と見らるべきものに、是等各組合が分離と同時に聯盟を結び、産業的組合に比しての職業的組合の弱點を或程度まで補ひ得た事がある。(註四三)又全國的植字工組合が社會主義思想に基かずして出發し成長した事も、斯る職業的組合分立に達したる一因に數へられるかも知れぬ。(註四四)

註三四 Ehelbert Stewart, A Documentary History of the Early Organizations of Printers (Washington, D. C., 1905), pp. 860-1, George A. Stevens, History of Typographical Union, No. 6 (Albany, 1913) pp. 34-36. Stewart は紐育組合成立を一七九五年として居るが、Stevens は一七九四年日附の同組合關係書類を引用して居る點より見て、一七九四年が正しからずと思はれる。尙 Stevens に依れば同組合以前十八世紀半に既に組合の存したるを述べて居るが、夫は或特種要求貫徹或は其他の目的にて一時的に存在したるものに過ぎぬが如くである。従つて Stewart の如く一七九四年の紐育活版印刷工組合を以て印刷業に於る「組合」として知られたる最初のものとするのが正しきと考へられる。

註三五 全國的活版印刷工組合成立の年も、一八五〇年とも一八五二年とも一八五二年とも云はれて居る。George A. Tracy, op. cit., pp. 17-39. に依れば、同組合は、其當時各都市に存在したる活版印刷工の組合が相互に接近し一八五〇年に集會を開きて或程度の組織を作り、翌年の集會に於て全國的組合組織を決議し規約を起草し、翌一八五二年の集會に於て新に参加したる組合も共に此規約を承認し役員を選挙して此處に全國的組合の第一回大會と變じたのである。故に同組合が成立したる年は一八五二年を見るのが最も妥當であらう。Barnett, op. cit., pp. 26-28, Amer. Labor Year Book, op. cit., Handbook of American Trade Unions, op. cit., p. 115, 等は此見地を採り、Commons and Associates, op. cit., Vol. II, pp. 47, 58, 313. は第一回集會の年一八五〇年を採つて居る。更に Selig Perlman, A Theory of Labor Movement (New York, 1928), p. 262 は第二回集會の年即ち全國的組合組織を決議し規約を規草して全國的都市組合に翌年の集會に就き撤を發したる年を以て、全國的活版印刷工組合成立の年として居る。

註三六 Stevens, op. cit. p. 206.

註三七 費府活版印刷工組合 (Philadelphia Typographical Society) が一八〇二年に採定たる其組合員の最低限賃銀表は、植字及印刷(狹義の)の二主要部門より成つて居る。而して此賃銀表は一八〇〇年の紐育活版印刷工組合の採定したる賃銀表と類似のものであると信ぜられて居る。其後の賃銀表にも此二部門が含まれて居る。Stewart, op. cit., pp. 865 et seq.

註三八 活版印刷工組合成立當初プレスメンは何の問題も無く其組合員中に含まれて居た。一八五六年に至リテネシ州メンフィスに於て活版印刷工組合が、プレスメンの参加を拒絶し何等の保護をも與へなかつた爲め、一プレスメンより全國的活版印刷工組合へ訴へのあつた際、同組合の一八五六年の大會に於て此問題が討議され、其結果プレスメンを加せしむる否かは、各都市支部組合の自由に任ずる決議された。一八五八年の大會に於ては、プレスメンを其組合に参加せしむるやう各都市支部に促す決議がなされ、此當時プレスメンも活版印刷工組合に依つて植字工同様 Printers と稱せられて居た事が記録されて居る。一八七〇年度大會に於ても同様の決議がなされた。此頃に至つて印刷機は蒸汽力に依りて運轉さるゝ事となり、プレスメンの作業は植字工の夫から明に分化して來た。一八七一年の大會は此趨勢を見、組合支部に對して一層の努力をプレスメン組織に盡くすやう勸告する事を決議した。一八七三年度大會に於てはプレッ

スメンに對し彼等のみの支部組合を植字工の支部組合より獨立して組織する事を許す決議を通過させた。又一八八五年には組合規約改正され、全國的活版印刷工組合の副組合長の中の一人はプレススメン組合員を代表しプレススメン中より選出さるゝ事となつた。是等一切の植字工の努力にも拘らずプレススメン脱退組の運動は次第に勢力を得て、遂に一八九五年活版印刷工組合より承認を得るに至つたのである。此経路は、活版印刷工より分離せる他の三組合の分離の経路と略々同じである。(Tracy, op. cit., pp. 161-3, 172, 251, 257, 268, 380, 478-9, 503-6)

註三九 Ibid., pp. 500-501 一八九四年大會に於る組合長の報告。

註四〇 Stevens, op. cit., pp. 556-8, Handbook. op. cit., p. 112.

註四一 Tracy, op. cit., は全國活版印刷工組合の大會記録の抜粋であるが、今製本工の獨立を承認された一八九五年度までの大會記録の抜粋を見るに、製本工との關係に就ては一八九四年大會まで殆ど何の記録もない。プレススメンと異り極めて冷かに植字工に依つて見送られた事が想像される。

註四二 Theodore W. Grockey, Amalgamation of Related Trades in American Unions, in J. R. Commons (Editor), Trade Unionism and Labor Problems, Secon Series (Boston, 1921), p. 371.

註四三 各勞働組合間の關係に就ては他日再述したいと思ふ。

註四四 尙此他に雇主の態度も亦此分解作用に重要な關係を持つたであらふ事が容易に想像される。併し此點に關しては殆ど何等據るべき記録が無い。一八九〇年全國的活版印刷工組合の大會に於て、副組合長の一人が其報告中に脱退プレススメンの組織せる國際印刷工組合を指して、活版印刷業雇主組合の愛顧を受けつゝある組合と稱した事が記録されて居るばかりである。(Tracy, op. cit., p. 440)

斯くして現在の北米國際活版印刷工組合の支配權の範圍は、地理的には北米合衆國、加奈太、ニューファウンドランド、バナマ及北米合衆國領土に及び、職業的には、手及機械植字工、校正工(以

上二者は慣習的に實際的印刷工 Practical printers と稱せられる。)機械係 (Machine tenders) 及發送工 (Mailers) を含むで居る。(註四五)紐育市に於ては同組合は、八の國語に對して各々の支部を有する他に尙一の發送工の組合を有する。(註四六)北米國際印刷工及助手組合には、「プレススメン、助手、紙取扱工、ローラア製作工、新聞賣子、運搬夫及其他のものにして他の國際組合の支配に屬せざるものの支部組合に認可を與へ之を統御し支配するの權力が屬する。」其地理的支配範圍は全北米大陸である。(註四七)紐育市には書籍及臨時物印刷プレススメン、同助手、新聞印刷プレススメン、及紙取扱工及紙延工の四支部を有する。國際製本工組合は、「製本工(書物及帳簿)、罫引工、紙斷工、倉庫係」其他「製本業に於る一切の勞働者の支部組合を設置する權力を有する。」(註四八)紐育市には六の支部組合を有し、其内一は女子製本工の組合、一は紙斷工の組合であるが、他の四組合の組織基礎は不明である。北米國際鉛版電胎版製版工組合は鉛版電胎版製版業の全作業に對して支配權を有し、紐育には鉛版製版工と電胎版製版工と各々の組合が組織されて居る。北米國際寫眞製版工組合の支配權範圍は、「寫眞術又は他の方法に依りて複製され印刷目的の爲めに使用さるゝ複製畫又は敘述」の複製に従事する勞働者全部に及ぶ。アルミニウム、亞鉛等の軟金屬板への蝕刻、平版印刷製版木版彫刻等に對しても、其支配權が及ぶのである。(註四九)

註四五 International Typographical Union, Constitution (1926), Article 1, Section 1. 尙 Machine tenders とは植字關係の機械の狀態に注意し故障なく運轉せしむる事を任務とする。

又國際活版印刷工組合は、其組合員を四種別に分けて居る。即ち植字工(外國文植字工も獨逸文以外の者は含まれる)、獨逸文植字工、發送工、新聞記者であつて、一九二七年五月三十一日調に依れば、植字工が七三八組合七二、〇一九名獨逸

文植字工一五組合五五八名、發送工五一組合三、一三九名、新聞記者三組合六九名である。(Typographical Journal, August, 1927)

註四六 發送工の作業は植字工の作業との關係密接を思はず、且つ同作業は新聞雜誌を包装し名宛紙を貼る事が主なるものであるからむしろ不熟練工に屬すべきである。Tacy, op. cit., pp. 397, 537-8. に依れば發送工は一八八七年既に彼等自身のみを支部組合を組織して全國的活版印刷工組合に屬して居る。又一八九七年以來發送工は、全國的活版印刷工組合の副組合長の中の一人を彼等の代表者として選出する事となつた。發送工が活版印刷工組合に加つた事情は筆者之を知る事が出来なかつたが、不熟練工にして數に於て少い彼等が、植字工の組合の下に保護される事を欲したと想像しても安全であらふ。

註四七 International Printing Pressmen and Assistants' Union, Constitution (1922), Article 1, Section 3.

尙同組合は其組合員を五種の支部組合に分ける。即ち三二三の書籍及臨時物印刷のプレスメン組合、二二の同助手組合、三三の新開印刷のプレスメン組合、二のインキ取扱工組合及三の紙取扱工及紙延延の組合である。(The American Pressman, September, 1926)

註四八 International Brotherhood of Bookbinders, Constitution (1926), Article 1, Section 1. 尙同組合は事實上一支部組合に同一作業に従事する者のみを組織して居るが如くであるが、何れの組合も一團となして支部番號を附して居る。活版印刷工及プレスメンの兩組合の支部番號は支部組合の種別に従ひ別々に附せられて居る。

註四九 International Stereotypers' and Electrotypers' Union, Constitution (1926), Article 1, Section 1. International Photo-Engravers' Union, Constitution (1925), Article 1, Section 2. 此二組合に於ては寫眞製版工はすべて同一の支部組合に屬し平版及電版製版工は一般に夫々別の支部組合に屬し、稀に兩者を共に含む支部組合がある。

平版印刷工の勞働運動は活版印刷工の夫と異つた徑路を辿つた。一八七〇年紐育市に於て彼等は最初の多少永續的な都市組合を組織し、此組合を中心として一八八二年に勞働騎士團の下に一準産業的全國組合の成立を見た。併し此際不熟練工を無視したが爲め、是等の不熟練工即ち石研工及プレスメン助手は、後に至つて夫々獨立の職業的組合を組織した。又此準産業的組合の内部にも不平分子を生じ、更に二の職業的組合が生まれた。加之後に至つて紙斷工も彼等自身の職業的組合に結束するに至り、此處に六の組合が並立する事となつた。而して是等組合の主張する支配權の範圍には多くの重複が存在したが爲めに、是等組合は、雇主に對する場合に限り時折組合相互間に一時的協力を見たる外は、絶えず紛争を續けて居たのであつた。一方雇主側は組合を作り漸次團結を固め、其強力なる侵掠的態度は勞働者側にとり一大脅威となりつゝあつた。斯くて平版印刷工の諸組合は一九〇三年中央平版印刷業委員會(Central Lithographic Trades Council)を通じて一防禦的同盟を結び之に對抗したが、一九〇六年此同盟も崩れ再び混亂状態の時代を経て、一九一四年國際的産業的勞働組合、全米平版印刷工同盟が組織さるゝ事となつた。ポスタア畫工組合及プレスメン助手組合は此産業的組合に参加せず、現在に於てもポスタア畫工の組合は獨立して存在し、謂ふ所の "Outlaw" 組合となつて居る。(註五〇)斯くの如く平版印刷業の勞働組合は、活版印刷業に於る夫と異り、先づ準産業的組合として出發し、産業的組合主義と職業的組合主義との對抗の中間時代を経て、再び産業的組合主義に歸り現在に及んだのである。此推移の陰に横はる動因の最も主なるものは、恐らくは雇主よりの強烈なる壓迫ではなかつたらふかと考へられる。産業的組合が分解して職業的組合の並立に至らんとする過渡期にある際、活版印刷業に於て云へば活版印刷工組合と脱退プレスメン及製本工とが未だ和議に達せざる時代と外觀上酷似せる時代に於て、雇主團體は

攻勢に轉じ、勞働組合をして防禦的同盟を結び之に對抗せしむるに至つた。而も尙雇主組合の勢力は斯の如き同盟を以てしても之と對抗するに不充分であつたが爲め、最後に産業的勞働組合に到達したと觀らるゝのである。此他平版印刷業に於ては一般に各種作品が同一經營内で行はるゝ事、職業間に活版印刷業に於るが如く劃然たる境界なき場合多く、一職業の者が他の仕事を爲し得る場合他の職業へ容易に轉じ得る場合多き事、各職業共其職工數に於て著しき差無き事、雇主組合に壓服せられてより社會主義に傾きたる事、更に平版印刷業全國的勞働運動が勞働騎士團から出發した事等も亦此推移に對して何等かの影響を與へたる動因として數へられやふ。

此平版印刷工勞働運動に於る紐育市組合の位地は、活版印刷業に於る場合以上に重要であつた。最初の組合が紐育市に組織され是が中心となつて全國的組合が成立した事は前記の如くである。一九〇四年雇主組合に對する防禦的同盟組織の際も、紐育市に於る各組合支部が合議の結果全國的に運動を開始したのであつた。又組合及雇主組合双方とも紐育市に本部を置く事等、是等の點より見て紐育市が重要な位地にある事が察せられる。

現在に於る平版印刷工同盟の支配權は、商業的印刷物畫工、ポスター印刷畫工、製版工、寫真平版製版工、寫真平版寫真師、圖案工、樂譜製版工、ペン及毛筆文字ビラ書工、轉寫工、試刷工、手引機印刷工、紙、鐵、錫、絹、布、ゴム、セルロイド其他一切の印刷し得べき物の上に、石研工及版板準備工及轉寫工に依りて作られ、特に平版印刷機械に適する製版されたる石材面又は金屬板面より印刷をなす單色又は複色刷平台、輪轉、及オフセット印刷機印刷工、手差及自働平台、輪轉及

オフセット印刷機紙差工、石研及版板準備工、平版印刷製版の目的に使はれ且つ平版印刷機に於て用ひらるゝ一切の轉寫機及寫真植字機、平版印刷作業に用ひられ平版印刷部に於て運轉さるゝ、一切の製版機械及其他平版印刷と適當に關係ありと認めらるゝ部門」の作業を含む。(註五一)以上より此組合の支配權の範圍は寫真製版工の夫と重複して居る事が明白である。且又オフセット印刷機の發明はプレッスマンとの間に爭議を起さしめた。(註五三)紐育市には全國的組合の本部がある他、支部協會第一がある。

北米國際銅版彫刻印刷工組合は、北米國際銅版印刷工組合 (International Steel and Copper Plate Printers and Die Stampers' Union of North America) 及國際銅版彫刻工組合 (International Steel and Copper Plate Engravers' Union) の合體したる組織である。此合同は一九二五年に至つて漸く行はれたのであるが、是等勞働者の最初の全國的組合は既に一八九二年に鋼銅版印刷工に依つて組織された。又都市組合は一八七〇年前後に華府及費府に鋼銅版印刷工の組合が存在し、是等は勞働騎士團に屬して居たが、是等以外の都市組合をも糾合して一八九二年ポストンに於て全國的組合の成立を見たのである。現在の國際組合は、鋼版銅版の彫刻印刷及浮出印刷用鋼版彫刻印刷に對する支配權を有する。是等は鋼版銅版印刷業の大部分を含むものであるから、此組合は産業的組合と見る事が出来る。鋼銅版印刷工の初期組合の成立したる頃は、彫刻工が既に一職業策として鋼銅版印刷工より分離し居たるや否やも不明であるが故に、果して此産業に於る勞働組合運動が他の二産業、活版及平版印刷業に於る夫と異つて、職業的組合に出發し準産業的組合に到達した

と斷定する事は不可能である。一九二五年二組合の合同したる理由に就ても何等據るべき資料を有しないが、製版工(即彫刻工)は印刷工の作業に轉換する事比較的容易なるが如く見ゆる事が、其理由の一として推測せられる。現在紐育市には三支部組合を有する。其三支部に組織分割せる基礎は不明である。(註五三)

國際鋼版印刷工協會 (International Association of Siderographers) は一八八九年に組織された。シデログラフイとは凹版印刷中の一作業過程の如くであるが、前述の鋼版銅版彫刻印刷工組合より出でたるものなりや否や不明である。此組合の特異なる點は、純然たる職業組合にして其職業にして其職業に従事する勞働者全部を包含する事即ち一〇〇%組織を有する事である。但し組合員數は全部にて八〇名、紐育市には一支部が存在する。(註五四)

註五〇 註三二參照、尙平版印刷業於る勞働組合、雇主組合の沿革は、H. E. Hoagland, *Collective Bargaining in the Lithographic Industry, Studies in History, Economics and Public Law*, Columbia University, vol. LXXIV, No. 3, (New York, 1917) に相當委しよ。

註五一 Amalgamated Lithographers of America, *Constitution* (1926), Article 1. 尙紙差工 (Pressfeeders) は一般に、助手 (Press Assistants) を稱せらるゝもの別名也。

註五二 組合間の支配權範圍に關する紛議は他日改めて述べたよ。

註五三 浮出印刷用銅版印版 (Die stamping Or Die embossing の假譯) には、半吋程の厚さを有する銅板を凹刻し、是より同模様の凸出銅版を作り、凹版の側にインキを附し兩版の間に紙を挟み壓力を加へて、印刷と共に模樣を浮出せしむる。

註五四 Siderography には、*Handbook of American Trade Unions*, op. cit., p. 114. 彫版に依れば「彫刻されたる銅版より彫版へ轉寫し更に印刷に用ふる金屬板へ轉寫をなす」過程を云ふ。Porter's Dictionary, op. cit., p. 235. に依れば「鋼鐵上に彫刻をなす術」也。又 U. S. Bureau of Labor Statistics, *Handbook of Labor Statistics, 1924-1926* (Washington, D. C., 1927), p. 362. に依れば「此過程は殆ど紙幣印刷のみに用ひらる。華府に於る本部より何の回答も來たらず、紐育支部は其名宛所も不明なる爲め、此以上の情報を得ずして終つた。

各組合の組織に就ては、資料を得る事の出来なかつた鋼銅版彫刻印刷工、シデログラフアス、ポスタア印刷畫工等を除き、各組合間に共通なる基本的組織單位を有する。即ち是等の組合は皆一工場より成る支部を有し、平版印刷工の場合を除きすべて是等の一工場支部は「Chapel」(禮拜堂)と稱せられる。是は歐洲に於て古き歴史を有する制度であつて、米國に於ては一八三二年紐育活版印刷工協會 (Typographical Association of New York) に依つて用ひられたのを矯矢とする。(註五五) 現在に於てはチャペルは一工場内に働く同一組合員より成り、チャペル集會及チャペル員に依つて選ばれたる一チャペル長一主事に依つて事務を掌る。初期勞働組合の政治機關たりし Mass meeting が今猶一般に其職能を果しつゝあるのは此チャペルに於てのみである。各都市組合の中にも亦小なるものは勿論是と同様であるが、大なるもの殊に紐育に於る組合の如きに於ては、一般投票が Mass meeting に替つて行はれる。チャペル職能の範圍及チャペル長の任務、權力は、國際及都市支部組合の規約に定められて居る。チャペルはチャペル内部のみ關係し、組合員一般には何等影響を及ぼさざるが如き事項に就てのみ自治權を有する。チャペル長の職能の主要なるものは、組合規

則及雇主との契約條項の施行を監督し、其工場に在る組合員非組合員の數等其工場の状態を組合に報告し、非組合員の組合加入を勧誘し、工場の衛生及安全設備の満足なるや否やを注意し、チャペル員より組合費を徴集する事等である。組合と雇主との契約は、工場内に争議起りし場合、チャペル長は組合を代表し職工長と交渉する事を規定してある。平版印刷工はチャペルなる名稱を用ひて居らぬが、其工場支部はチャペルと殆ど同様である。唯此場合には、「工場委員」(Shop delegates)が工場に於て組合を代表し、「工場代表」(Shop representatives)が組合に於て工場支部を代表するのである。

斯くの如くチャペルは印刷業勞働組合の一組織單位として其自治權の範圍こそ狭いものであるが、組合の行政機關として重要な職分を果しつゝある。次にチャペルの上位にある組織單位なる支部組合の自治權の範圍も國際組合の規約に依り制限されて居る。雇主との契約締結、同盟罷業の宣言の如き重要事項が國際組合の嚴重なる監督の下に置かるゝ事は勿論である。國際組合は其規約の條項違犯を以て或場合には支部組合に對する認可を停止する權力を有する。國際組合は又強大なる財源を有する。又死亡、罷業の惠與金を支配して居る。斯くの如く支部組合は國際組合の支配の下に、其自治權の範圍を狭められて居るのである。併し組合運動の初期に於ては主權はむしろ支部組合にあつた。一八五〇年代鐵道の急激なる發達に依つて自由にされたる印刷工の地方的移動は、各地勞働市場を攪亂し各地勞働組合に種々の困難を齎した。全國的組合は主として此印刷工の地方的移動を統制する目的を以て組織されたのであるから、其職能は極めて狭き範圍に限られ、大部分立法的

司法的の權限を有するに過ぎなかつた。一八八四年以後に於て全國的組合は、漸次其權力を増加し、ストライキの扶助、團體交渉の監督、惠與金制度の開設等に依り、支部に對し強力なる中央集權組織が生じたのである。チャペルの場合に於ても其制度の實施されたるは支部組合の成立より遙に後の事であるに拘らず、當初は現在に比して大なる權限を有し、一八八一年に至るまで屢々チャペルがストライキを宣言したる場合があつた。斯の如くチャペルの權限は支部組合に依りて漸次狭められ、支部組合の權限は全國的組合に依りて漸次狭められて來た。(註五六)

各組合組織の基礎に就ては、各組合間に數種類が認められる。前述の如く米國平版印刷工同盟は、平版印刷業全般を基礎とし、紐育市支部も同じく産業的組合である。其政治機關は組合長、副組合長、書記會計長、等の他に、畫工、製版工、轉寫工、試刷工、プレスメン、紙差工、石研及版板準備工の各職業の代表者一名宛より組織される。シデログラフアスは之に反して純粹に職業的組合である。此他の組合は皆密接なる關係を有する數職業を基礎とし、職業的組合(純粹又は純粹に近き)を支部として居る。又製本工は女子製本工のみの支部を有し、植字工は紐育市に於て八ヶ國語の各々に對し一部の支部を有する。植字工も一八六九年より一八七三年に至る期間に於て、女子植字工に對し獨立の支部組織を許したが、主として賃銀額相違の爲め男女兩植字工組合の對立を不利ならしめ、以後女子植字工も男工と何等差別なく同一組合に屬する事となつた。製本工の場合に於ては女子は一般に男工と異なる作業をなすが故に、植字工の場合の如き困難は生ぜぬのである。外國語植字工に對し特別に支部組合の組織を許したのは一八六九年以後である。此分立の理由は主とし

て是等國語を異にする植字工間の協同動作の困難なる事及同一の賃銀を維持し難き事とであつた。以上各勞働組合の沿革、其組織、其支配權範圍等を極めて概略ながら述べ終つた。併し是等多數勞働組合分立の結果として更に一つの聯合組織の在る事を述べねばならぬ。一八九〇年紐育に於ては紐育及近郊活版印刷業及類似業聯盟 (Federation of Printing and Kindred Trades of New York and Vicinity) が、植字工、鉛版製版工、及製本工に依つて組織された。一九〇四年に至り活版印刷工組合、プレスメン及其助手其他のプレスメン及助手組合、鉛版電胎版製版工組合、寫眞製版工組合及製本工組合が、國際印刷業聯合協會 (International Allied Printing Trades Association) を組織し、紐育に於ても其支部なる紐育及近郊印刷業聯合委員會 (Allied Printing Trades Council of New York and its Vicinity) が前記一八九〇年以來の組織の後継者となつた。此組織に就ては他の機會に多少詳細に述べたいと思ふ。

註五五 チャールなる名稱の起源は不明であるが、往時の印刷工チャールに於ては現時のチャール長及書記が夫々神父及役僧と呼ばれたるが如きを見れば、印刷工が其仕事場を眞實のチャールに象り、宗教的精神を以て其勞働生活をも律せんとしたるは明白である。十九世紀の印刷工の勞働状態を叙述したる文獻に依るも、彼等の勞働生活が如何に宗教的熱情を持つたものであつたかを察せられる。(Stevens, op. cit., pp. 121-4) 歐洲に木版印刷の現れたるは一四世紀、移動活字に依る活版印刷の發明されたるは一五世紀であつて、此時代を通じて主なる印刷物が宗教的のものなりし事が印刷工に影響せるに非ずやと考へられる。

註五六 George E. Barnett, The Government of the Typographical Union, in J. H. Hollander and G. E. Barnett (Editors), Studies in American Trade Unionism (New York, 1906), pp. 15-41. は是等の諸點に關する明快なる叙述である。

五 勞働團體の沿革及組織——雇主組合

一八六二年紐育活版印刷業協會 (Typothetae of New York) なる名稱の下に、書物、雜誌及臨時物印刷業者の團體が生まれた。此團體は主として印刷業者間の激烈無秩序なる競争を統制する目的を以て組織されたのであつた。當時の印刷業は殊に小規模經營のものであり、南北戦争及それに續く好景氣に面して斯る小規模經營者間の競争は、遂には何等かの統制を緊急なる必要とするに至つた。併し當時勞働組合は其成立後既に半世紀餘に及び、全國的組合も成立して既一〇年を経て居た。雇主は彼等自身間の競争を統制するが爲めに團結して、組織の力を體驗したのである。今や強大となり行く勞働組合に對抗するが爲めにも、團結するに至つた。斯くて一六八九年には此紐育組合は既に勞働組合の賃銀値上要求と對抗し、一月より四月に至る爭議の後團體契約の締結を見たのである。(註五七) 全國に於ても斯る雇主の組合は漸次發達し、一八八七年當時の國際活版印刷工組合の勞働時間短縮運動に對抗せんとする事を主たる動機として、市俄古に集合せる各都市印刷業者組合に依り全米活版印刷業者同盟 (United Typothetae of America) が成立した。是は書籍雜誌及臨時物其他の印刷業者の組織であるが、新聞業者も同年に全國新聞業者協會 (American Newspaper Publishers' Association) を組織した。併し此團體は當初雇主組合として動かず、一三年後の一九〇〇年に至つて國際活版印刷工組合と全國的團體契約を結んだ。斯の如く全國的雇主組合組織の直接動機は、書籍印刷業者と新聞印刷業者との間に相違して居るが、兩者とも其團結の力に依りて勞働組合の成長する勢力と均衡を保たんとするに至つた事は同様である。(註五八) 新聞印刷業者と活版印刷工との全

國の契約は其後連年改新せられて一九二二年に及び、此年に改新せられず今日に至るも兩團體の全國的契約は復活されて居ない。一方全米活版印刷業者同盟は、新聞業者協會と異り、雇主組合として出發したのであつたが、反労働組合雇主と組合雇主との長さ抗争の後一九二〇年に至つて雇主組合たる職分を放棄した。爾後は同々盟に從屬する自治團體、反労働組合雇主の組合及労働組合雇主の組合(Open and closed shop divisions)が替つて夫々の雇主組合たる職分を行ふ事となつた。全米活版印刷業者同盟の紐育支部は紐育活版印刷業者協會(New York Employing Printers Association)と稱せられ、後者は又活版印刷業者聯盟部(Printers' League Section)を有する。全米活版印刷業者同盟の Closed Shop Division の現在の名稱を全米活版印刷業者聯盟(Printers' League of America)と云ひ、此聯盟の紐育支部が同業組合たる紐育活版印刷業者協會に從屬して活版印刷業者聯盟部となるのである。紐育活版印刷業者協會員にして希望の者を其部員として居る。(註五九)

平版印刷業に於ては紐育市に於て一八七〇年に最初の労働組合が生まれ、一八八二年に全國的組合の成立を見た。雇主側に於る團結運動が紐育に起りたる時期は不明であるが、紐育に於て發行せられたる活版及平版印刷業の雜誌一八八四年九月號は、全國平版印刷業者及労働者に呼びかけ、平版印刷業に於る利潤の不當に低く労働者の技能も低下したるを訴へ、雇主及労働者の全國的團結に依つて是等困難を救済せん事を勧めた。同時に又同誌は、平版印刷業の無組織状態は各個平版印刷業者の印刷過程上の秘密主義に其因を發するものであると論じた。(註六〇)此際の試は失敗に歸し、後一八八八年に至つて漸く全米平版印刷業者協會(National Lithographers' Association)が組織せ

られた。同協會も亦其當初は同業組合として組織されたのであつて、一八九六年労働組合より最初の全國的要求が提出さるゝに及び初めて雇主組合たる職分を行ふ事となつたのである。而も此際も猶全國的には統一したる雇主運動はなく、紐育に於る雇主は、メトロポリタン平版印刷業者協會(Lithographers Association of the Metropolitan District)を組織して労働組合に對抗したのであつた。而して全米協會も後に分裂を來たし、東部及西部平版印刷業者は夫々分立した。東部組合はメトロポリタン協會を中心とし、同業組合より雇主組合に傾きたるに反し、西部組合は同業組合一方に偏しつゝあつた。斯の如き分立の理由として、第一に東部に於ては西部に於るよりも労働組合發達し、第二に東部にては印刷業者間の競争激烈にして統制困難なりし事、第三に東部印刷業者は生産力西部印刷業者に勝り従つてより廉價に販賣し得る事、等が挙げられて居る。(註六一)併し労働組合の成長は一九〇二年労働問題に關する範圍に於てのみ東西兩雇主を聯合せしめ、遂に一九〇六年に全然同一協會に合同するに至らしめた。現在の雇主組合の名稱は平版印刷業者全米協會(Lithographers National Association)にして紐育市に其東部を置いて居る。

是等の組合は左程強力なる中央集権的の組織を有せぬが如くである。全米活版印刷業者同盟は、「常團體及其何れの從屬團體も、労働條件及印刷物價格決定に關し、如何なる時に於ても全團體員を統制する事なし。」と宣言して居る。(註六二)又全米新聞業者協會と労働組合との契約は、其契約を承認する雇主のみを拘束するものである。平版印刷業者全米協會の組織は此點不明である。他の雇主組合の沿革及組織は之を知る事が出来なかつたが、右に述べた三組合は、印刷業に於る基本的部門

に於る雇主組合であつて、従つて他の雇主組合は大體に於て之等に範を採つて組織されて居る事が推測される。

以上不十分ながら雇主組合の沿革及組織を述べたのであるが、前記三雇主組合が、孰れも勞働組合より後に成立した事が注意される。雇主勞働者間の關係が個人的交渉に依つて律せられて居た時に、先づ勞働組合が起つて團體的交渉を要求し、勞働組合の發達は個人的交渉時代の勢力の比例を顛覆してしまつた。斯くして雇主は勞働組合以前の優越なる地位を奪回するが爲めに生まれて來た。全米活版印刷業者同盟及全米新聞業者協會の場合に於ては、雇主組合對勞働組合の勢力は、略、均衡に近きものとなつたが如くであるが、平版印刷業者全米協會の場合に於ては、其成立に依つて、雇主對勞働者の對抗力の比例は激烈に攪亂さる事となり、一九〇六年以來反勞働組合工場の状態が敢行され、勞働組合は屈服を強制されたのである。

註五七 勿論雇主が一時的團結に依つて勞働組合に抗争したるは此以前からの事であるのは容易に推測され得る。斯くして既に一八〇九年には勞働組合の賃銀値上宣言に對し、印刷業者が集合評議の結果雇主側の案を勞働組合に提出し、更に双方の代表者の會議に依りて解決に達したる記録がある。(Seyens, op. cit., pp. 51-57)之に反して新聞業者間には、一八九四年に至るまで斯る場合が無かつたもの、如くである。(Ibid., p. 294)且一八八七年全國的新聞業者團體の組織する、まで、紐育市に於る斯の如き團體は、其同業組合たる雇主組合たるを問はず、存在し居たるや否やも不明である。

註五八 何故に新聞業者の雇主組合が雇主組合として作用し始めた事が、斯くの如く書籍雜誌及臨時物印刷業者よりも遅れたかの理由は、此兩印刷業の規模の相違より或程度まで説明せらるゝと思ふ。新聞印刷は書籍乃至雜誌臨時物印刷よりも一般に大規模に經營さるゝ事は明白であつて、従つて新聞業雇主は勞働組合との對抗力に於て書籍其他印刷業者よりも

般に勝つて居ると云ひ得る。同時に又大規模にして小數であるが故に、新聞業者間の競争統制は書籍其他印刷業者に於るよりも容易であり得る。但し勞働組合側にも新聞業に於る印刷工の組合は、書籍其他印刷業に於るよりも發達し得るのである。一八五二年より一八五七年迄紐育活版印刷工組合内部に分裂を生じ、書籍其他印刷工は獨立の組合を組織した。後者は一八五七年に解散し同組合員は元組合に歸屬したのであるが、此際の原因は、當時書籍其他印刷工は組合員中の一〇分の一を占むるに過ぎずして、一〇分の九を占むる新聞印刷工の勢力の爲めに彼等自身の欲するが如き制度を施行し得なかつたこと云ふにあつた。而して其不満の主要點は、是等書籍其他印刷工の主張する所に従へば、組合の方針が死亡及病氣患與金制度を重んじ、爲めに組合費嵩みたるに反し、書籍其他印刷工は斯る救濟制度よりも安き組合費を以て雇主との抗争のみに従事する組合を欲したる事であつて、是が爲めに書籍其他印刷工は組合に参加せず、其結果書籍其他印刷工にして組合員たる者斯くも少數であつたと云はれたのである。(Ibid., pp. 258-275. Tracy, op. cit., pp. 144-5)併し他方より見れば、書籍其他印刷業に於ては其經營一般に小規模なりし爲め勞働者を組織する事困難にして、従つて少數の書籍其他印刷工組合員は多數派なる新聞印刷工組合員の制肘を受けつゝあつたと云ひ得るのである。換言すれば、惠與金制度は書籍其他印刷工組合員の少數なる原因に非ずしてむしろ結果なりと推測されるのである。斯くの如く勞働組合側にも新聞業に於ては組織が發達して居たのである。併し新聞業と書籍其他印刷業との經營規模の相違が、勞働者側に於る兩印刷業間の組織程度の間隔以上なりしに非ずや、換言すれば、新聞業に於ては勞働者は書籍其他印刷業に於るよりも充分に組織されて居たのであるが、而も猶新聞業と書籍其他印刷業との經營規模の差と相殺し得る程度に達し居らざりしに非ずやと考へられるのである。故に兩印刷業間の規模大小の差は、其雇主組合成立時期の遅速を或程度まで説明するものと見られぬ事もないのである。

註五九 書籍其他印刷業に於ては、一八八七年全米同盟成立後幾多の全國的地方的組合が生れ、又該同盟も分離合同の變遷を経たる後漸く現在の比較的統一された状態に達したのである。

最初の印刷業聯盟は、一九〇七年に組織され、後に至つて活版印刷業者同盟に合併された。併し一九二一年國際活版印

刷工組合のストライキの結果同聯盟は消滅し、一九二三年同盟の Closed Shop Division が此名を繼ぐ事となつた。

註六〇 Hoagland, op. cit., pp. 18-19.

註六一 Ibid., p. 30.

註六二 The United Typothetae of America, Constitution (1923), Article IV, Section 1.

附記。右は昨年五月米國コロムビア大學在學中に執筆せる「組育印刷業に於る團體交渉」の一部を翻譯補訂したるものである。更に他の機會を得たならば、本稿に於る勞資團體間の關係其他を記述し、本稿と併せて讀者の御叱正を仰ぎ度いと思ふ。尙本稿が、筆者の無力にも拘らず兎も角も讀者に見みゆるまでの形態を具ふるに至つたのは、一にコロムビア大學ブリッセンデン、シイガア兩教授及本機關教授の御懇篤なる御指導及御批判に依るものである事を附記し、感謝の意を表す。(昭和四年九月一〇日)

前號 目次

第十三卷 第十一號

●英國に於ける道路の發達と産業革命 野村兼太郎

●全勞働組合の崩壊と一八七三年の恐慌 園 乾 治

●ソルラヌとカッセル 永 田 清

——主として理論經濟學上に於ける兩者の關係に就て——

●ホップ・イムス教授逝く 生 形 要

●一冊定價金五拾錢
●半年分金貳圓九拾錢
●一年分金五圓四拾錢

●編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛
●營業に關する用件は發賣元宛
●原稿締切期日は發行の前月十日限

昭和四年十月二十日印刷
昭和四年十一月二日發行 每月一回一日發行

三田會社 編輯者 江田 範 保
發行所 東京市赤坂區新町五丁目四十二番地
印刷者 金子 鐵 五 郎
印刷所 東京市赤坂區新町五丁目四十二番地
金 子 活 版 所

發賣元 東京市芝區三田貳丁目壹番地
丸善株式會社三田出張所
電話高輪一九二六番

發行所 東京芝三田 慶應義塾内 理財學會